

第2期 日田市スポーツ推進計画 後期計画（案）

令和6年1月

日田市教育委員会

目 次

第1章 計画の概要	1
1. 計画改定の趣旨	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 計画の期間	2
4. 本計画におけるスポーツの考え方	2
5. 本計画とSDGs	3
第2章 本市スポーツの現状と課題	4
1. 人口の動向とスポーツ推進	4
2. スポーツの実施状況	4
3. スポーツイベントの開催	9
4. スポーツボランティアの状況	10
5. スポーツ施設の状況	11
6. 新型コロナウイルス感染症による影響	11
第3章 これからのスポーツ推進施策	12
1. 計画の基本理念と基本目標	12
2. 施策の体系図	13
3. スポーツ推進のための具体的施策	14
「する」…スポーツ実施率の向上	14
誰もが気軽に取り組めるスポーツの推進	
「する」「みる」…競技スポーツの推進	16
トップアスリートの育成	
「する」「みる」…スポーツによる交流人口の増加	17
スポーツツーリズムの推進	
「ささえる」…施設利用の向上	19
安全で安定的なスポーツ施設の提供	
「ささえる」…スポーツボランティアの推進	20
スポーツにおけるボランティア体制の充実	
4. 後期計画における具体的重点戦略	21
5. 目標指標の設定と進捗管理	22
6. 計画実施の主体	22
資料編	
1. スポーツ基本法（概要）	24
2. 第2期大分県スポーツ推進計画（概要）	25
3. 市民アンケート調査結果	26
4. 関係団体意見聴取結果	29
5. スポーツ振興課所管施設一覧	31
6. 日田市スポーツ振興計画策定委員会設置要綱	33
7. スポーツ振興計画策定委員会委員名簿	34

第1章 計画の概要

1. 計画改定の趣旨

本市では、平成24(2012)年3月に10か年を計画期間とする「日田市スポーツ振興計画」を策定し、平成29(2017)年3月には、この計画の上位計画となる日田市総合計画との整合性や社会情勢の変化等を踏まえ、「日田市スポーツ振興計画 後期計画」を策定しました。

令和4(2022)年3月には「第2期日田市スポーツ推進計画」を策定し、「「する」「みる」「ささえる」スポーツの力で地域を笑顔に」を基本理念として掲げ、「スポーツ実施率の向上」「競技スポーツの推進」「スポーツによる交流人口の増加」「施設利用の向上」「スポーツボランティアの推進」に取り組んできました。

国内では、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、スポーツに対する国民的な気運が高まり、改めて、スポーツが持つ力を再認識したところです。

また、本市では令和5(2023)年10月にツール・ド・九州2023が開催され、令和6(2024)年度には全国高等学校総合体育大会のバレーボール競技、自転車ロードレース競技、第78回国民スポーツ大会(SAGA2024国民スポ)自転車ロードレース競技、さらにはツール・ド・九州2024も開催される予定となっています。

このような中、スポーツをすることに伴う「楽しさ」や「喜び」と、健康の増進やこれを見る者に対する感動や共感の喚起、地域社会の活性化等の多面的な価値を有するスポーツについて、これまでの取り組みを継続し、成果と課題を検証し、令和6(2024)年度から令和9(2027)年度までの「第2期日田市スポーツ推進計画 後期計画」を策定します。

2. 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に規定される「地方スポーツ推進計画」として策定するもので、「第2期大分県スポーツ推進計画」(令和3(2021)年3月策定)を参酌するとともに、「第6次日田市総合計画」(平成29(2017)3月策定)及び「日田市教育大綱」(令和4(2022)3月改訂予定)「日田市教育行政実施方針」(令和6(2024)3月改訂予定)の個別計画として、本市の実情に即したスポーツの推進に関する計画として、市民や関係団体・機関と連携を図りながら、計画的かつ横断的な取組を進めるための内容を明らかにするものです。

3. 計画の期間

第2期日田市スポーツ推進計画の期間は令和4（2022）年度から令和9（2027）年度の6年間としており、本計画は後期計画として、令和6（2024）年度から令和9（2027）年度までの4年間を計画期間とします。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
総合計画基本構想	第6次日田市総合計画 基本構想（11年間）										
総合計画基本計画	第1期基本計画 （3年間）			第2期基本計画 （4年間）				第3期基本計画 （4年間）			
スポーツ推進計画	日田市スポーツ振興計画					第2期日田市スポーツ推進計画					
	後期					前期			後期		
日田市教育大綱	日田市教育大綱(H28～R3)					日田市教育大綱(R4～R9)					
日田市教育行政実施方針	日田市教育行政実施方針					日田市教育 行政実施方針		日田市教育行政実施方針			

4. 本計画におけるスポーツの考え方

(1) スポーツの定義

スポーツ基本法の前文では、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」とされています。

本計画では、スポーツを広義に捉え、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく、レクリエーションや健康づくりのために行うラジオ体操やストレッチ等の緩やかな運動のほか、ウォーキングやサイクリングといった生活上の必要性を超えて実施される身体活動、さらにはスポーツ観戦やスポーツボランティア活動に至るまで、「スポーツ」を「する」・「みる」・「ささえる」等の視点から、自発的に行う様々な身体活動も含むこととします。

(2) スポーツの意義と価値

スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツを親しむことは、極めて大きな意義を有しています。

そして、スポーツは体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすものであり、スポーツをすることに伴う「楽しさ」や「喜び」こそがスポーツの有する価値の中核であるとともに、スポーツは、健康の増進、これを見る者に対する感動や共感の喚起、地域社会の活性化等の多面的な価値を有します。

また、スポーツには、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心等の精神の涵養等の目的・意図を持って、自発的に取り組む身体活動と捉え、人々がこうした活動を楽しみながら、親しみながら取り組むといった「スポーツ自体が有する価値」と、「地域社会の再生」「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」「国民経済の発展」「国際相互理解の促進」等の社会活性化・課題解決に寄与するといった「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」の2つの観点があります。

以上のことから、スポーツの推進をより一層進めていくための基盤の整備・充実を図ることは、本市の重要な施策の一つであると考えています。

5. 本計画とSDGs

SDGsとは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人間活動に起因する諸問題に対応して、人類が将来にわたり恵み豊かな生活ができるよう、平成27(2015)年に国連が提唱した「持続可能な開発目標」であり、国は地方公共団体における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組の普及・促進を行っています。

本市においては、第6次日田市総合計画に基づき、目指すべきまちの実現を図っていくことでSDGsの目標に繋がるものと考え、推進しています。

このため、本計画においては、施策ごとにSDGsの目標を表示し、その推進を図ります。



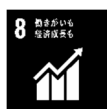
「第2期日田市スポーツ推進計画」では、以下のゴールを目指します。



3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を推進する



8. 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する



11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする



17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

第2章 本市スポーツの現状と課題

1. 人口の動向とスポーツ推進

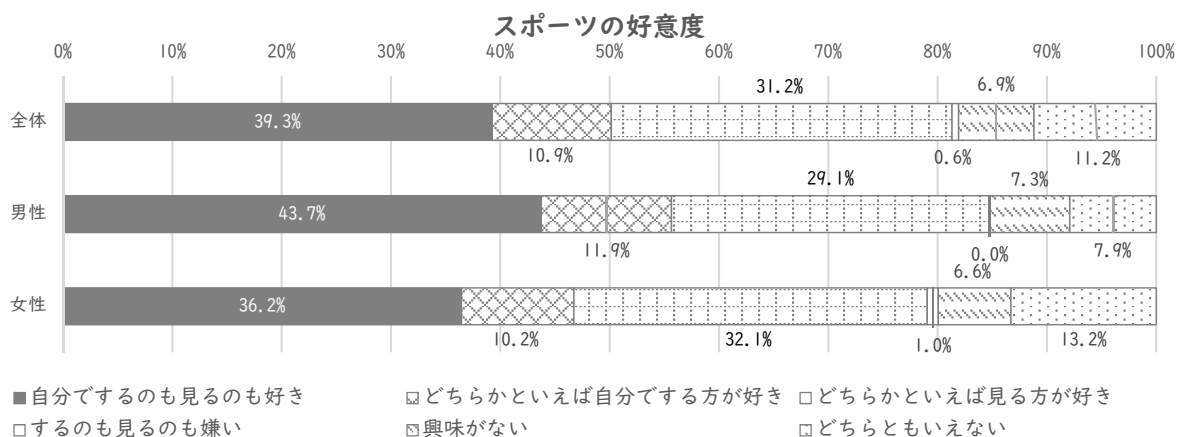
第6次日田市総合計画における本市の人口ビジョンは2060年の人口を50,795人として、5万人規模の人口維持を目指すこととしています。このビジョンに基づく2020年推計人口は65,735人に対し、2020年国勢調査人口は62,657人と約3,000人少ない結果となっています。また、大分県の人口推計による本市の高齢化率は平成27(2015)年10月は32.72%、令和2(2020)年10月は35.82%と約3.1ポイント上昇し、人口の減少、高齢化が進展しています。

この人口減少、高齢化の進展はスポーツを取り巻く環境としても大きな課題となっており、今回の計画策定時に市スポーツ協会の種目部や地区体協に意見聴取を行ったところ、「高齢化が進み、若い選手が少ない、参加者がいない、指導者不足、役員の引き受け手がない」などの意見が出されています。

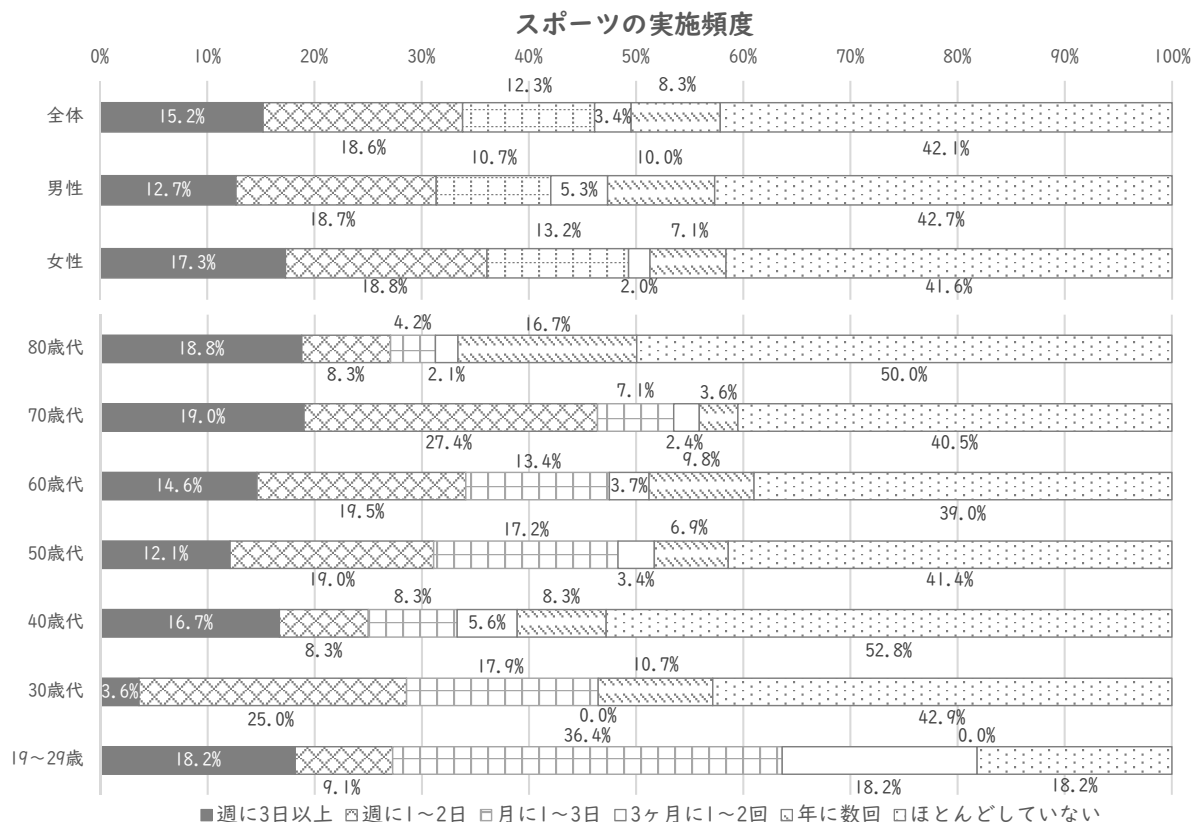
一方、人々が定住するためには、地域への愛着も必要となります。今回の計画策定時に実施した市民アンケート調査では、日常的に運動習慣がある方の愛着度が88.8%であることに対し、運動習慣がない方は80.8%と、運動習慣がある方の愛着度が高い数値を示す結果となりました。この傾向は、生活の満足度や幸福と感じる人の調査も同様の結果となっています。

2. スポーツの実施状況

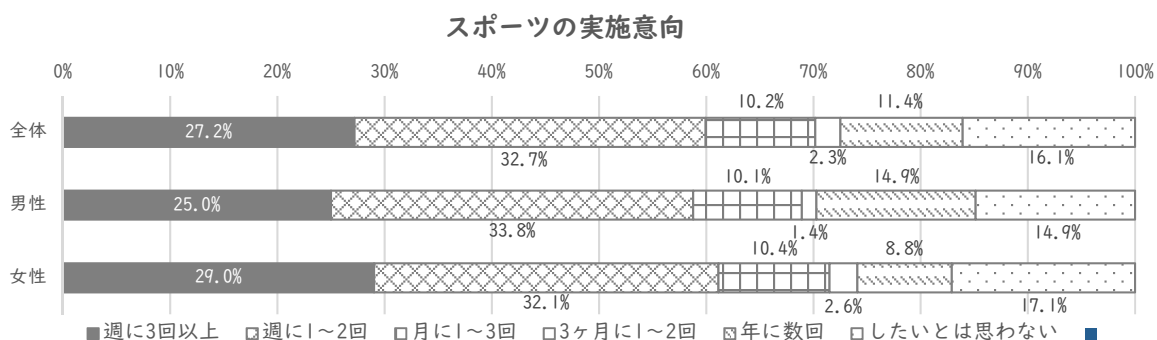
市民アンケート調査において、運動やスポーツ（以下「スポーツ」という）が好きか、嫌いか尋ねたところ、81.4%の方が好意的に捉えており、男女の比較では、男性が84.8%、女性が78.6%と、男性の方が高い割合を示す結果となっています。



次に、成人の週1回以上のスポーツの実施頻度（以下、「定期的なスポーツの実施」）は33.8%で、令和3(2021)年に実施した前回調査(39.3%)より減少しています。ここ数年のコロナ禍におけるスポーツ活動の自粛等による影響が考えられ、日常におけるスポーツ活動の習慣が減っています。また、ほとんどしていない方は42.1%であり、前回調査(41.9%)とほぼ変わらないものの、今回調査で特に40歳代で「ほとんどしていない」と回答した割合(52.8%)が前回調査(43.9%)より多くなっています。



また、今後の実施意向は、定期的なスポーツの実施頻度が59.9%であり、前回調査より2.4ポイント低くなっており、現在、定期的には実施していない方のうち26.1%の方が今後、新たに定期的にスポーツを実施したいとの意向を示しており、今後は、実施意向の方にいかにスポーツを実施させていくかが課題です。



この1年間に実施した種目は、「ウォーキング」「体操（ラジオ体操）」「グラウンドゴルフ」の順となっており、これから行いたい種目も同様の結果でした。

実施状況（全体） （上位5競技）複数回答可		回答者数に 対する割合	実施意向（全体） （上位5競技）複数回答可		回答者数に 対する割合
1	ウォーキング	36.2%	ウォーキング		32.5%
2	体操（ラジオ体操）	15.5%	体操（ラジオ体操）		14.2%
3	グラウンドゴルフ	8.7%	グラウンドゴルフ		11.9%
4	ジョギング・ランニング	8.4%	水泳		9.0%
5	ボウリング	6.0%	ジョギング・ランニング		8.7%
	回答者数	343人	回答者数		345人

一方、スポーツを実施する上での阻害要因は、「年をとっている」「家事が忙しい」「身近に施設がない」の順となっており、男女の比較では、女性の回答に「家事が忙しい」、男性は「勤務時間が長い」「休暇がない」が上位に入っています。

阻害要因（全体）（上位5要因）複数回答可		回答者数に対する割合	回答数に対する割合
1	年をとっている	21.4%	11.1%
2	家事が忙しい	13.6%	7.1%
2	身近に施設がない	13.6%	7.1%
4	勤務時間が長い	13.4%	7.0%
5	病気である	11.9%	6.2%
	特になし	17.5%	9.1%
回答者数・回答数		337人	646件

阻害要因（男女別）（上位5要因）複数回答可

	男性			女性		
	種目	回答者数に対する割合	回答数に対する割合	種目	回答者数に対する割合	回答数に対する割合
1	年をとっている	22.8%	13.0%	年をとっている	20.4%	10.0%
2	特になし	22.1%	12.6%	家事が忙しい	18.8%	9.2%
3	勤務時間が長い	14.5%	8.3%	身近に施設がない	14.7%	7.2%
4	休暇がない	13.8%	7.9%	特になし	14.1%	6.9%
5	身近に施設がない	12.4%	7.1%	勤務時間が長い	12.6%	6.2%
	回答者数・回答数	145人	254件	回答者数・回答数	191人	390件

市民の体力について、小中学生は、毎年度、児童生徒の体力・運動能力等調査（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ）を実施しており、令和4（2022）年度の結果は、令和3（2021）年度の全国平均を上回る項目数は、前年度から小学校では男子は3項目、女子は2項目が減少し、中学校では男子は1項目の増、女子は1項目の減でした。実施種目別では、小学校では握力、ボール投げ、上体起こし、長座体前屈が良好、50m走、反復横とびが課題となっています。また、中学校では長座体前屈が良好、上体起こし、ボール投げ、シャトルラン、50m走が課題となっています。

日田市の平均値が全国平均を上回る項目数

校種	性別（項目数）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	男子（48項目）	35項目	22項目	新型コロナウイルス感 ウイルス感	26項目	23項目
	女子（48項目）	41項目	29項目		28項目	26項目
中学校	男子（24項目）	6項目	10項目	感染症対策の ため中止	5項目	6項目
	女子（24項目）	20項目	7項目		3項目	2項目

（令和4年度体力・運動能力等調査から）

成人の体力についても毎年、市内2地区程度で体力テストを実施し、全国調査のサンプルとなっていますが、市民の体力の現状を把握することができるサンプル数となっています。

主なスポーツ大会の成績や全国大会等に出場する市民の人数については、コロナ禍で3年ぶりの開催となった令和4（2022）年県民スポーツ大会では総合5位となったものの、令和5（2023）年大会は総合3位と振り返りました。また、全国大会に出場する市民の人数も、全国大会の中止により、出場人数が激減していましたが、令和4（2022）年度はコロナ禍以前の人数に近づいており、競技力向上を目指し、継続した取組が必要となります。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
県民スポーツ大会の成績	3位	3位	-	-	5位
全国大会に出場する市民の人数	250人	261人	46人	148人	219人

※ 令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため県民体育大会(令和4年度から県民スポーツ大会へ名称変更)は中止。全国大会は多くの大会が中止となった。

全国大会に出場した個人・団体数(延べ数)

	平成2年度		令和3年度		令和4年度	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
空手道					9人	
弓道			1人			
グラウンドゴルフ						1団体
剣道	1人		1人	2団体	4人	1団体
柔道			1人		2人	
相撲			2人		2人	
ソフトボール		2団体		4団体		6団体
卓球			1人		2人	
バスケットボール				1団体		2団体
バドミントン	6人		5人	4団体	19人	3団体
バレーボール						1団体
フェンシング					1人	
ボウリング					3人	
ボート		2団体		4団体	1人	4団体
ホッケー					2人	
野球			2人	1団体	1人	1団体
ラグビー		1団体				
陸上	1人		1人		6人	

(日田市スポーツ激励金等交付リストから)

※ 令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため多くの全国大会が中止となった。

国際大会への出場

	種目	大会名等
令和元年度	サッカー	Mundialito2019 (選手として1名)

(日田市スポーツ激励金等交付リストから)

国際・全国大会での活躍

	種目	大会名・成績
令和元年度	ボート	令和元年度第74回国民体育大会 個人競技1位
	ボート	令和元年度全国高等学校総合体育大会ボート競技大会・第67回全日本高等学校選手権競漕大会 個人2位
	野球	第13回西日本古希軟式野球大会 1位
	陸上	第40回記念国際・全日本マスターズ陸上競技選手権大会 個人2位
令和2年度	陸上	全国高等学校陸上競技大会2020 個人2位
令和4年度	ボウリング	令和4年度第77回国民体育大会 団体3位
	空手道	全日本空手道連盟剛柔会 第48回全国空手道選手権大会 個人3位
	剣道	第64回全国教職員剣道大会 団体3位(対象1名)

(日田市スポーツ激励金等交付リストから)

3. スポーツイベントの開催

市民がスポーツを実施する機会や活躍する機会として、また、交流人口の増加や市内で経済効果を生み出すため、日田市スポーツ協会や各競技団体などにより、様々なスポーツイベントが開催されています。

日田市教育委員会が共催・後援した令和4年度のイベント

総合	大分県民スポーツ大会、県民すこやかスポーツ祭、大分県高等学校総合体育大会
ウォーキング	水郷ひたチャレンジウォーク
グラウンドゴルフ	日田市長杯グラウンドゴルフ大会
剣道	日田市少年剣道選手権大会、少年健全育成日田地区剣道大会、大原八幡宮奉納少年剣道大会
ゴルフ	日田市長杯ゴルフ大会
自転車	椿ヶ鼻ヒルクライムレース
少林拳	少林拳日田大会
バドミントン	若鮎カップ小学生バドミントン大会、日田市小学生バドミントン大会
フェンシング	フェンシングランキングマッチ
ボート	水郷ひた三隈川ボート大会
陸上	日田市少年少女交流駅伝大会、天領日田ひなまつり健康マラソン大会、小学生駅伝大会
その他	天領日田トレイル駅伝

令和4年度市民体育大会

種目	参加地区数	種目	参加地区数	種目	参加地区数
アーチェリー	6地区	柔道	2地区	バドミントン	8地区
ウェイトリフティング	8地区	水泳	中止	バレーボール(男)	7地区
弓道	9地区	スキー	5地区	バレーボール(女)	6地区
グラウンドゴルフ	13地区	相撲	中止	ボウリング	16地区
ゲートボール	8地区	ソフトテニス	9地区	ボート	4地区
剣道	5地区	ソフトボール(男)	12地区	ミニバレーボール	4地区
ゴルフ	16地区	ソフトボール(女)	中止	軟式野球	11地区
サッカー	中止	卓球	10地区	ラグビー	5地区
山岳	9地区	テニス	6地区	陸上	8地区
自転車	10地区	バスケットボール	9地区		

日田市スポーツ協会が主催・共催した令和4年度のイベント

総合	市民体育大会(29競技)、県民すこやかスポーツ日田大会、大分県民スポーツ大会
アーチェリー	九州地区マスターズアーチェリー大会
ウォーキング	水郷ひたチャレンジウォーク
ゴルフ	日田市長杯ゴルフ大会
自転車	椿ヶ鼻ヒルクライムレース
ソフトテニス	全九州天領日田シニアソフトテニス大会
ソフトボール	全国実年ソフトボール大分県予選会
バドミントン	若鮎カップバドミントン大会
フェンシング	日田市フェンシング全国大会
ボウリング	日田市オープンボウリング選手権大会
ボート	水郷ひた三隈川ボート大会、
ラグビー	日田市ラグビーフェスティバル
陸上	天領日田ひなまつり健康マラソン大会
その他	スポーツ医科学研修(スポーツ講演会)、競技力向上・普及び指導者養成研修会等

また、今後も、本市の立地条件や資源を活かしながら、スポーツ大会の開催やスポーツ合宿の誘致により、市外からの参加・利用を促すスポーツツーリズムの推進が必要です。

スポーツイベント参加者数

事業名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース	371人	403人	中止	中止	300人
水郷ひたチャレンジウォーク	752人	704人	448人	494人	779人
天領日田ひなまつり健康マラソン大会	1,426人	中止	853人	中止	348人
全国市町村交流レガッタ日田大会	－	1,006人	－	－	－
フェンシング全国大会	－	－	－	297人	421人
小計	2,549人	2,113人	1,301人	791人	1,848人
コンベンション誘致(延べ宿泊者数)	1,437人	1,383人	390人	1,406人	373人
合計	3,986人	3,496人	1,691人	2,197人	2,221人

※ 令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止もしくは規模を縮小し開催。

さらには、これまで、多くのスポーツ合宿が本市で行われ、スポーツツーリズムの中核事業として定着していることから、今後も市民にトップレベルのアスリートの練習を間近で「見て、触れて、感じる」機会の創出と受け入れ環境の充実が必要です。

平成30年度	フェンシング国際トレーニングキャンプ(5か国42人) フェンシングU20 サーブルキャンプ(日本、22人)
令和元年度	フェンシング国際トレーニングキャンプ(8か国50人) フェンシングU20・U17 サーブルキャンプ(日本、40人)
令和2年度	フェンシング競技男子エペ日本代表強化キャンプ(15人) 男子7人制ラグビー日本代表候補合宿(30人) 男子7人制ラグビー代表強化キャンプ(40人)
令和3年度	オリンピック カメルーン選手団事前合宿(26人、陸上・ボクシング・重量挙げ・柔道・レスリング・水泳・卓球) オリンピック フェンシング・エペ競技日本代表チーム事前合宿(18人) オリンピック フェンシングウクライナ代表チーム事前合宿(21人) ラグビー男子セブンス合宿(32人)

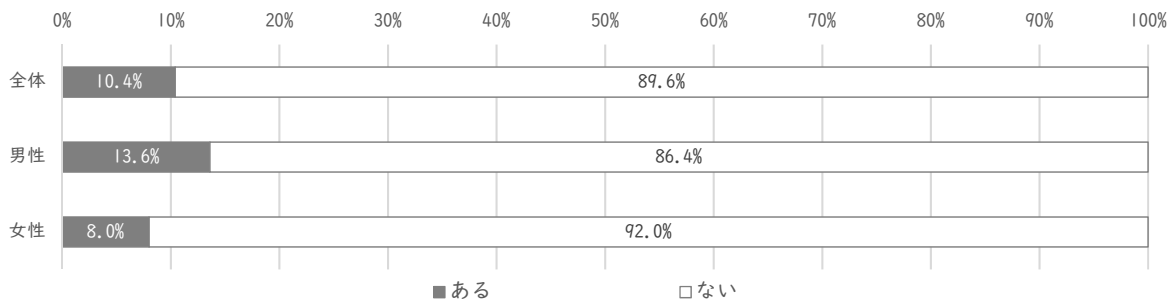
4. スポーツボランティアの状況

多くの団体や事業所、個人の関わりによりスポーツイベントは開催されています。市民アンケート調査では、この1年間のスポーツのボランティアに参加した人は10.4%で前回調査より1.9ポイント多くなっています。しかし、今後の意向では、参加意向の人は47.0%で前回調査より2.8ポイント低くなっており、ボランティアの確保・育成に向けた取組の充実が必要です。

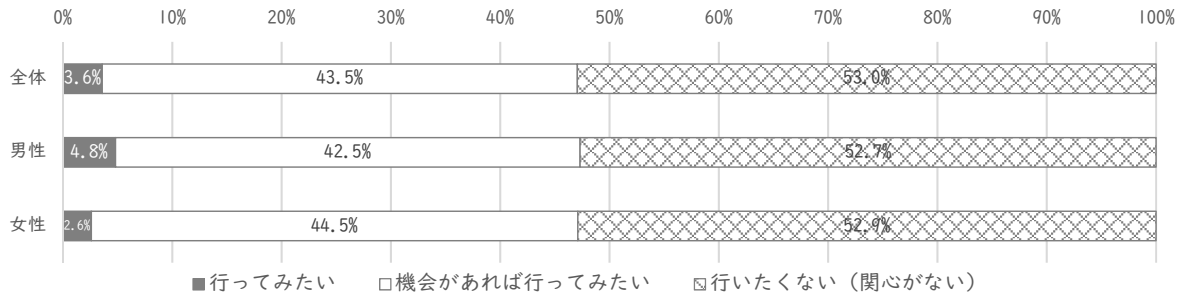
イベントスタッフ数(職員を除く)

事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース	149人	中止	中止	64人
水郷ひたチャレンジウォーク	78人	43人	40人	107人
天領日田ひなまつり健康マラソン大会	中止	343人	中止	240人
全国市町村交流レガッタ日田大会	124人	－	－	－
フェンシング競技国際トレーニングキャンプ	88人	－	－	－
合計	439人	386人	40人	411人

ボランティアの参加状況



ボランティアの参加意向



5. スポーツ施設の状況

スポーツ振興課が所管するグラウンドや武道場、体育館などのスポーツ施設は49施設あり、市内の各地区に設置しています。

種別	数	施設名
アーチェリー場	1	アーチェリー場
弓道場	2	弓道場、五馬弓道場(天瀬)
グラウンド	11	大原グラウンド、中城グラウンド、三和スポーツ広場、大鶴スポーツ広場、鯛生スポーツセンター(中津江)、上津江グラウンド(上津江)、広川運動広場(上津江)、上野田多目的スポーツ広場(上津江)、天瀬総合グラウンド(天瀬)、天瀬スポーツ広場(天瀬)、天瀬屋根付き運動広場(天瀬)
相撲場	1	相撲場
ソフトボール場	1	光岡スポーツ広場
体育館	8	中城体育館、総合体育館、川辺体育館(中津江)、都留スポーツセンター(上津江)、上津江体育館(上津江)、大山体育館(大山)、B&G中津江海洋センター(中津江)、B&G天瀬海洋センター(天瀬)
テニスコート	5	竹田テニスコート、大原テニスコート、大原公園テニスコート、天瀬第1テニスコート(天瀬)、天瀬第2テニスコート(天瀬)
武道場(剣道、柔道等)	7	武道場、総合体育館剣道場、総合体育館柔道場、前津江町柔剣道場(前津江)、大山武道場(大山)、B&G中津江海洋センター(中津江)、B&G天瀬海洋センター(天瀬)
プール	6	市営プール、京町プール、北友田3丁目プール、B&G中津江海洋センター(中津江)、B&G大山海洋センター(大山)、B&G天瀬海洋センター(天瀬)
ボート関係	2	夜明トレーニングセンター、竹田艇庫
野球場	2	朝日ヶ丘球場、平野球場
陸上競技場	1	陸上競技場
その他	2	鯛生スポーツセンター(中津江)、日田市天瀬やまびこ研修所(天瀬)

※ ()内は所在地。記載ない場合は旧日田市に所在。

10 ページのスポーツ施設以外に、市内小中学校の体育館やグラウンド、勤労者総合福祉センター体育館（サンヒルズひた）、萩尾公園グラウンド、ウッド平島公園多目的広場、西峰スポーツ公園、大原公園スケートボード場など、スポーツ振興課以外の部署が管理する施設が整備されています。この他、民間のプールやボウリング場などがあり、このうち、社会体育の振興を図るため、学校教育に支障のない範囲で、多くの小中学校の体育館やグラウンドは子どもや大人のスポーツ活動に利用されています。

これら施設のうち、建築後 30 年を超える施設も多くあり、今後、公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な整備等が必要です。

種別	施設名
ポート関係	夜明トレーニングセンター
野球場	平野球場
武道場（剣道、柔道等）	武道場、総合体育館剣道場、総合体育館柔道場、前津江町柔剣道場
体育館	中城体育館、総合体育館、川辺体育館、都留スポーツセンター、B&G天瀬海洋センター
弓道場	弓道場
プール	B&G大山海洋センター、B&G天瀬海洋センター
その他	鯛生スポーツセンター

また、令和 3（2021）年 3 月に策定した「日田市公共施設等総合管理計画 個別施設計画（第 1 期：令和 3 年度～令和 7 年度）」では、川辺体育館を廃止、B&G 中津江海洋センターと鯛生スポーツセンターを民間移管と計画しています。

スポーツ振興課が所管するスポーツ施設の利用者は、令和 2（2020）年度からコロナ禍でスポーツ施設の閉鎖やスポーツ活動の自粛等が実施された影響を受け、大幅に減少しています。

主要なスポーツ施設の利用状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
大原運動公園	132,808 人	114,792 人	91,475 人	59,270 人	109,075 人
中城体育館	36,817 人	46,328 人	23,737 人	29,970 人	24,397 人
天瀬総合運動公園	32,336 人	22,754 人	6,966 人	7,915 人	12,422 人
鯛生スポーツセンター	50,654 人	49,475 人	4,197 人	13,121 人	20,048 人
その他施設	180,608 人	196,235 人	124,148 人	138,018 人	141,428 人
計	433,223 人	429,584 人	250,523 人	248,294 人	307,370 人

※ 大原運動公園は大原公園テニスコート、総合体育館、陸上競技場を、天瀬総合運動公園は B&G 天瀬海洋センターを、鯛生スポーツセンターは B&G 中津江海洋センターを含んで算出。

6. 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ施設の閉鎖やスポーツイベント等の中止、さらには、集団活動の自粛や他者との接触を回避するなど、市民のスポーツ活動が大きく制限されてきました。その結果、スポーツや運動を行う習慣は、感染拡大前から大きく減少し、アンケート調査からもその結果がわかります。

コロナ禍において、スポーツが日々の生活から失われ、制限された結果、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への影響、社会的な閉塞感のまん延など、様々な

影響を及ぼしてきました。

身体的及び精神的な健康を維持していく上では、スポーツや運動を行うことは有効であり、スポーツが私たちの生活や社会に活力を与える重要な価値を持っていることから、さらにスポーツの実施を推進する必要があります。

第3章 これからのスポーツ推進施策

1. 計画の基本理念と基本目標

スポーツを行うことは、健康や体力の保持増進、精神的な充足感などが得られ、見る人には感動を与えます。また、様々なスポーツは、いろいろな人が関わり、助け合いにより成り立っています。そして、スポーツは、誰もが何らかの形で享受できるものです。

これら、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わりは、地域コミュニティの形成に寄与します。

「第2期日田市スポーツ推進計画」は、令和4（2022）年度から令和9（2027）年度の6年間としていることから、本計画の基本理念及び基本目標については、前期計画と同様に以下のとおりとします。

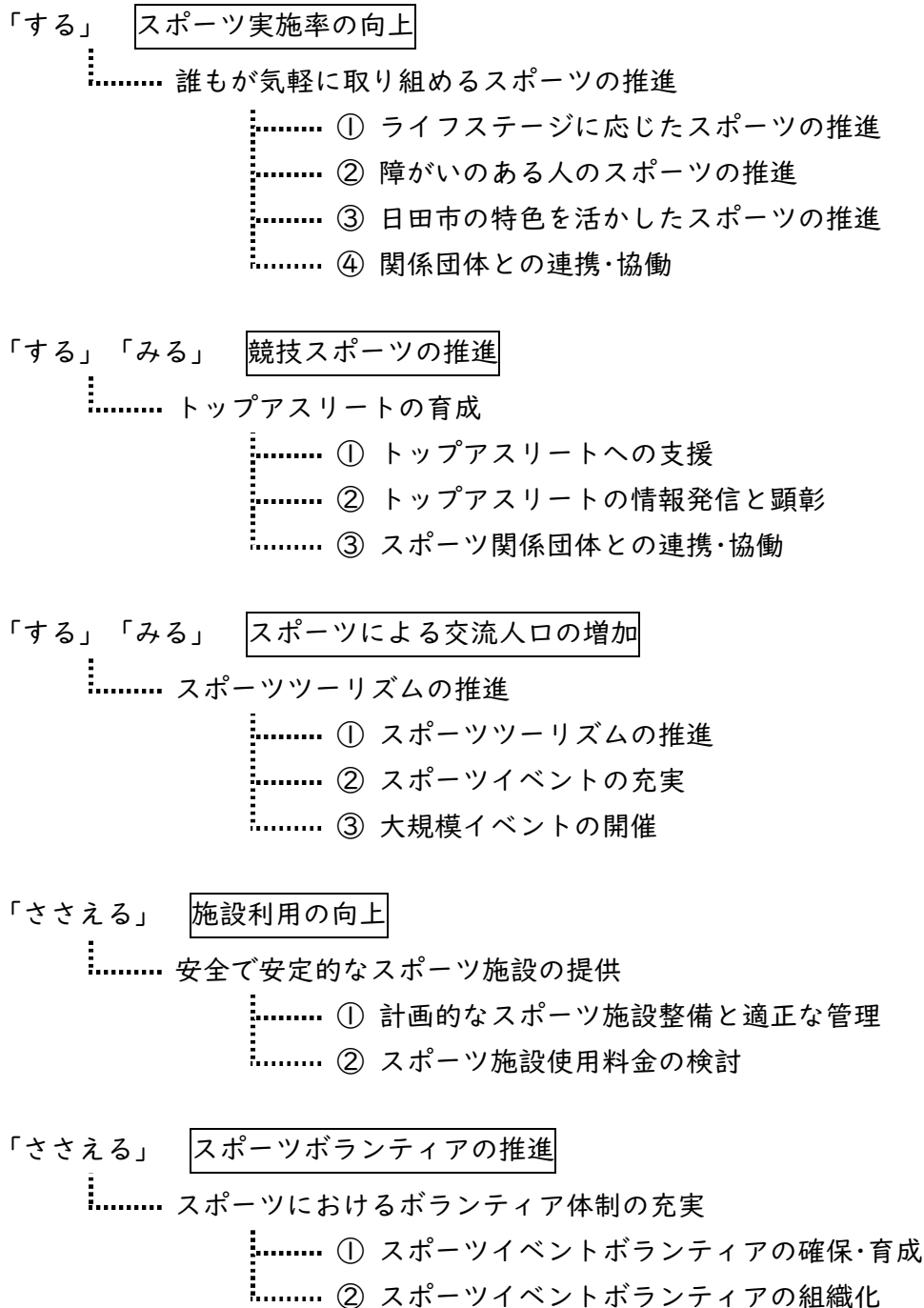
「する」「みる」「ささえる」スポーツの力で地域を笑顔に

また、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点で、本市の課題に基づき、以下の基本目標を定め、それぞれに施策と具体的施策を整理します。

項目	基本目標	
「する」	スポーツ実施率の向上	
「する」「みる」	競技スポーツの推進	スポーツによる交流人口の増加
「ささえる」	施設利用の向上	スポーツボランティアの推進

2. 施策の体系図

基本目標 施策 具体的施策



3. スポーツ推進のための具体的施策

基本目標 : 「する」… スポーツ実施率の向上



施策 : 誰もが気軽に取り組めるスポーツの推進

具体的施策 : ① ライフステージに応じたスポーツの推進

■ 現状と課題

- ・ スポーツを実施することは、健康づくりや生きがいづくりにつながり、また、地域への愛着が生まれ、定住にもつながります。
- ・ 生活習慣病の予防や市民の健康寿命の延伸のためにもスポーツを実施することは重要な取組です。
- ・ 本市の成人の定期的なスポーツの実施は 33.8%で、前回調査より 5.5 ポイントの減、県平均と比較して 12.1 ポイント低い結果となっています。
- ・ 今後、定期的なスポーツの実施意向の方は 59.9%であり、新たに 26.1%の方が実施したいとの意向です。
- ・ 年代別では、70 代の実施率が高く、40 代が低くなっています。
- ・ 本市の小中学生の体力・運動能力について、令和 4 (2022) 年度の全国平均達成率は、小学校 51.0% (49 項目/96 項目)、中学校 16.7% (8 項目/48 項目) であり、令和 3 (2021) 年度と比較して、中学生男子以外は項目数が減っています。
- ・ 中学校運動部活動については、学習指導要領において、学校教育活動の一環として明記されており、今後も推進していくことが必要です。
- ・ スポーツ少年団は、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供し、スポーツを通して青少年のこころとからだを育て、スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献することを理念としています。
- ・ 日田市のスポーツ少年団は、理念に基づき指導者研修等を実施しており、現在 15 団体が加入していますが、加入団体は競技種目に偏りがあります。
- ・ 今後は、スポーツを行いたい方にスポーツに関する情報の提供や機会を創出するとともに、児童生徒がスポーツに興味・関心を持ち、スポーツを行うことが好きな人の割合を増やすことが必要です。
- ・ スポーツ少年団は、加入団体同士の交流や連携、加入のメリットが得られる施策が必要です。
- ・ 本市のお達者年齢（健康な状態で過ごすことのできる期間。平成 29 (2017) 年から令和 3 (2021) 年の平均値）は、県内自治体の中で男性 79.20 歳（県平均 80.25 歳）、女性 84.46 歳（県平均 84.71 歳）で、男女ともに県平均値を下回っています。
- ・ 80 歳代の定期的なスポーツの実施は 27.1%と前回調査より 14 ポイント低く、今後の実施意向は 31.8%となっており、いかに高齢の方がスポーツに親しみ、健康で長生きしていただくかが課題です。

■ 主な取組

- ・ 市民がスポーツを通じて気軽に楽しみ、健康づくりや生きがいづくりの取組を、市教育部局と福祉部局が主管し、関係団体等と協働して実施します。

- ・ スポーツイベントの実施にあたっては、参加者の声を聴き、より参加しやすい環境をつくるともに、イベント情報などを積極的に発信します。
- ・ これまでも実施していますグラウンドゴルフ用具やボッチャ用具等の軽スポーツ用具の貸出を継続するとともに、貸出用具の充実に努めます。
- ・ 体育専科教員の活用などにより、運動の日常化・習慣化につながる学校体育の充実を図るとともに、中学校運動部活動は外部指導者を積極的に活用します。
- ・ ひた健康運動リーダーやステップ運動リーダーを養成し、リーダーが主体となって各地区公民館で介護予防につながる運動の普及や啓発、ステップ運動やスロージョギングの教室の開催を支援します。
- ・ スポーツ少年団独自に支給している激励金制度を継続するとともに、加入することで得られる施策を検討します。

具体的施策 : ② 障がいのある人のスポーツの推進

■ 現状と課題

- ・ 障がいのある人にとってスポーツは、健康づくりや機能回復のみならず、仲間との交流やコミュニケーションを深める機会にもなります。社会参加の促進や生活の質の向上を図る上で、障がい者スポーツは、大変重要な役割を果たしています。
- ・ 障がいの有無に関わらず、誰もがそれぞれの個性やニーズに応じた活動を楽しめるようなスポーツ・レクリエーションの推進が必要です。

■ 主な取組

- ・ スポーツ活動に障がい者が気軽に参加、観覧できるように、合理的配慮を推進します。
- ・ 障がい者のスポーツ大会への参加を促進します。

具体的施策 : ③ 日田市の特色を活かしたスポーツの推進

■ 現状と課題

- ・ 本市は緑豊かな山に囲まれ、市中心部には豊かな水量を誇る三隈川が流れるなど、豊富な自然を有しています。
- ・ これまで、山を駆け上がる自転車大会（ヒルクライムレース）、水辺を活用したボート大会などが開催されています。
- ・ 今後も、本市が持つ貴重な資源を生かしたスポーツの推進が必要です。

■ 主な取組

- ・ 自転車は、生涯各世代にわたって通勤や通学に利用している市民も多く、競技振興とともに、手軽にできるスポーツとして推進します。
- ・ 川は、最も日田らしい場所であると言えます。スポーツとして、誰もが楽しく親しめる取組やイベントを開催します。

具体的施策 : ④ 関係団体との連携・協働

■ 現状と課題

- ・ スポーツ基本法に基づいて委嘱された日田市スポーツ推進委員は、本市のスポーツ推進において中核的な役割を持つ人材であり、地域のスポーツ活動や健康増進活動などで活躍しています。
- ・ 生涯スポーツの推進のため開催しています水郷ひたチャレンジウォークや天領日田ひなまつり健康マラソン大会、県民すこやかスポーツ祭などでは、日田市スポーツ推進委員協議会、日田市スポーツ協会、日田市レクリエーション協会など、各団体の協力を得ながら開催しています。
- ・ 今後も、各種団体の連携を一層強化し、活動の活性化を目指します。

■ 主な取組

- ・ 各種団体の自主性を尊重しながら、必要な支援を行い、連携を深める中で各種大会を開催します。
- ・ スポーツ推進委員の活動の充実を図るため、処遇の改善に努めるとともに、手軽な運動内容などの普及や機会の創出に関する研究などの活動を支援します。

基本目標 : 「する」「みる」… 競技スポーツの推進



施策 : トップアスリートの育成

具体的施策 : ① トップアスリートへの支援

■ 現状と課題

- ・ 市在住者や市出身者の活躍は、市民に感動や共感を生み出すとともに、スポーツ活動への動機づけにもなります。
- ・ 全国大会に出場する市民の人数は令和2（2020）、3（2021）年度、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの全国大会が中止され、出場人数も激減していますが、令和4（2022）年度は増加しています。
- ・ 現在、36競技団体において構成されている日田市スポーツ協会は、競技力向上や指導者の育成、競技人口の増加など、本市のスポーツ推進の中核的な役割を示しています。
- ・ 大分県民スポーツ大会の総合成績はコロナ禍以前3位を維持し、令和4（2022）年度は5位と順位を下げたものの、令和5（2023）年度は3位に返り咲いています。
- ・ 日田市スポーツ協会が主催します市民体育大会は令和4（2022）年度、25競技（1競技は雨天中止、3競技は新型コロナウイルス感染症拡大により中止）開催しています。
- ・ 日田市スポーツ協会の各競技団体は、競技力の向上、選手の育成、競技人口の拡大などの目的で各種大会を開催しています。
- ・ 今後も、競技力向上のため、継続した取組が必要です。

■ 主な取組

- ・ 今後も、激励金等によるトップアスリートへの支援や県民スポーツ大会出場への支

援、スポーツ施設の利用料の減免などを継続します。

- ・ 競技力向上のため、日田市スポーツ協会などの関係団体と連携し、各種大会や講演会の開催等を支援します。

具体的施策 : ② トップアスリートの情報発信と顕彰

■ 現状と課題

- ・ 例年、全国大会に 200 人を超える選手が、九州大会には 300 人を超える選手が大会に出場しています。
- ・ 令和 4 (2022) 年度の市民体育大会は 20 地区ある中で 1 競技平均 8 地区の参加にとどまっています。
- ・ 全国大会や国際大会で上位の成績を収めた選手には、賞賜金の支給や市長賞及び教育長賞を授与しています。
- ・ 上位大会での出場や成績、市民体育大会の開催状況などの情報が市民に十分周知されている状況にはありません。

■ 主な取組

- ・ 今後も、賞賜金の支給や表彰制度を継続します。
- ・ 各種大会の開催や成績などを、関係団体と連携し、市民への情報発信に努めます。

具体的施策 : ③ スポーツ関係団体との連携・協働

■ 現状と課題

- ・ 市民体育大会をはじめ、競技力向上のための各種大会は、日田市スポーツ協会、各競技団体などが主催しています。
- ・ 「若い選手が少ない」、「参加者がいない」、「指導者不足」、「役員の引き受け手がない」などの意見が競技団体や地区体協から寄せられています。

■ 主な取組

- ・ 日田市スポーツ協会が実施しますスポーツ医科学研修や競技力向上研修などを支援し、競技力向上と指導者確保に努めます。
- ・ 市と日田市スポーツ協会、競技団体、地区体協などの関係団体との意見交換会の開催、情報共有などに努め、関係団体との連携・協働を推進します。

基本目標 : 「する」「みる」… スポーツによる交流人口の増加

施策 : スポーツツーリズムの推進

具体的施策 : ① スポーツツーリズムの推進

■ 現状と課題

- ・ 日田市は北部九州の中央部に位置し、福岡都市圏に近く、交通アクセスが良いなど立地が良く、山や川、歴史、食文化など豊富な資源を有しています。



- ・ 市内には 450 名の宿泊能力を有し、5面の天然芝などのグラウンド、雨天練習場、体育館、プールが整備された鯛生スポーツセンターのほか、天ヶ瀬温泉街に近接します天瀬総合運動公園など、多くの方が訪れ、スポーツ合宿等ができる施設があります。
- ・ スポーツ大会やスポーツ合宿などで日田市に宿泊した場合、経費を助成する「スポーツ合宿誘致推進事業」、「コンベンション誘致事業」を実施しています。

■ 主な取組

- ・ 今後も、本市が持つ立地条件や資源を活かし、市外からの参加・利用を促す取組を展開します。
- ・ 施設を管理する指定管理者や観光部局と連携し、スポーツツーリズムを推進します。

具体的施策 : ② スポーツイベントの充実

■ 現状と課題

- ・ 交流人口の増加や市内で経済効果を生み出すため、「奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース」「水郷ひたチャレンジウォーク」「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」などが開催されています。
- ・ スポーツ競技においても、市外から多くの選手等が参加する大会が開催されています。

■ 主な取組

- ・ 今後も、関係団体と連携し、市民の生涯スポーツの推進とともに、スポーツツーリズムとして市外から参加しやすいイベントの創出に努めます。

具体的施策 : ③ 大規模イベントの開催

■ 現状と課題

- ・ 全国的な大会として、令和元(2019)年度に全国市町村交流レガッタ日田大会、令和3(2021)年度から日田市フェンシングランキングマッチ、令和5(2023)年度にツール・ド・九州2023を開催しています。

■ 主な取組

- ・ これまで培った人脈や経験を活かし、今後も全国的なイベントの開催に努め、訪れた選手等が満足できるイベントを目指します。

基本目標 : 「ささえる」… 施設利用の向上



施策 : 安全で安定的なスポーツ施設の提供

具体的施策 : ① 計画的なスポーツ施設整備と適正な管理

■ 現状と課題

- ・ 市内には、スポーツ振興課が所管する施設のほか、小中学校の体育館やグラウンド、公園、民間施設など様々なスポーツ施設が整備されています。
- ・ 令和4（2022）年度に日田市陸上競技場第2種公認更新事業、令和5（2023）年度に日田市B & G天瀬海洋センター体育館改修工事を行っています。
- ・ 市が管理するスポーツ施設には、建築後30年を超える施設が多くあります。
- ・ 市は公共施設等の適正な配置や効率的な管理運営を目的に「日田市公共施設等総合管理計画」を策定しており、この計画に基づく適正な管理が必要です。

■ 主な取組

- ・ 「日田市公共施設等総合管理計画 個別施設計画（令和3年度～令和7年度）」に基づき、川辺体育館の取壊し、B&G中津江海洋センターと鯛生スポーツセンターの民間移管を進めます。
- ・ 安全・安心に利用できるよう、施設の整備や維持管理を適切に実施し、施設の有効活用及び長寿命化を図ります。
- ・ 利用状況や施設の老朽化等を鑑み、今後、施設のあり方を検討します。

具体的施策 : ② スポーツ施設使用料金の検討

■ 現状と課題

- ・ スポーツ施設の使用料は、受益者負担の観点で適正な料金設定がなされています。
- ・ 「日田市第5次行政改革大綱 第2期実行プラン（令和2年度～令和5年度）」で、令和4（2022）年度に市の施設使用料の減免において、受益者負担の観点から見直しが行われています。
- ・ 今回の計画策定時に市スポーツ協会の種目部や地区体協に意見聴取を行ったところ、「総合体育館の空調使用料が高いため夏に大会ができない。空調使用料の減額、免除をお願いしたい」との意見が寄せられています。

■ 主な取組

- ・ 良好な環境のもとスポーツを「する」「みる」ことができるよう、総合体育館の空調使用料については、どのような負担が望ましいか検討を進めます。

基本目標 : 「ささえる」… スポーツボランティアの推進



施策 : スポーツにおけるボランティア体制の充実

具体的施策 : ① スポーツイベントボランティアの確保・育成

■ **現状と課題**

- ・ スポーツイベントを開催するには多くの人々の支援が必要であり、「奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース」「水郷ひたチャレンジウォーク」「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」などのイベントでは、多くのボランティアの参加をいただいています。
- ・ 市民アンケート調査では、47%の方が新たにボランティアに参加したいと回答しています。
- ・ 現在、スポーツイベントの開催時は、個々の団体や個人に呼びかけ、ボランティアを募集しています。
- ・ 市民参加によるスポーツイベントを実現するためにも、多くのボランティアの確保・育成が必要です。

■ **主な取組**

- ・ スポーツイベントやボランティアに関する情報を積極的に発信するとともに、普及・啓発に努めます。
- ・ ひた健康運動リーダーやステップ運動リーダーなど、運動ボランティアの育成及び支援を行います。
- ・ ボランティアへの登録制度などを用い、多くのボランティアの確保に努めます。
- ・ 単にボランティアへの参加に止めず、大会に参画する機会を設けます。

具体的施策 : ② スポーツイベントボランティアの組織化

■ **現状と課題**

- ・ ボランティアが有効に活躍するため、団体同士の意見や情報の交換などの機会を設けることが必要です。

■ **主な取組**

- ・ ボランティアの力でスポーツイベントをスムーズに運営するため、個々のボランティア団体等の活躍を前提に、各団体同士の連携・組織化を進めます。

4. 後期計画における具体的重点戦略

これまで掲げた具体的な施策のうち、今後4年間に取り組むべき重点戦略は次のとおりです。

◎スポーツ実施率の向上

- ・ 「水郷ひたチャレンジウォーク」「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」「奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース」など、これまでも実施してきた大会をはじめ、スポーツデイの催し等を継続的に実施します。
- ・ スポーツイベントの実施にあたっては、参加者やスポーツイベントボランティアの方々の意見を踏まえ、イベント内容を見直しながら、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を作っていきます。
- ・ スポーツ関係団体と連携を深めるため、意見交換会などを実施します。

◎競技スポーツの推進

- ・ 九州大会や全国大会等への参加選手に対する支援や優秀な成績を収めた選手を顕彰するスポーツ激励金制度を継続します。
- ・ 日田市スポーツ協会への支援を継続し、競技力向上に努めます。

◎スポーツによる交流人口の増加

- ・ スポーツ大会やスポーツ合宿などで日田市に宿泊した場合、経費を助成する「スポーツ合宿誘致推進事業」「コンベンション誘致事業」を実施し、スポーツツーリズムを推進します。
- ・ 今後、開催が予定されている自転車ロードレースの国際大会「ツール・ド・九州」、オートポリスで開催される「第78回国民スポーツ大会（SAGA2024 国スポ）」の自転車ロードレース競技、「令和6年度全国高等学校総合体育大会」の男女バレーボール競技・自転車ロードレース競技、さらには、フェンシング全国大会には、市外から多くの方々が訪れます。大会の成功に向け、県や競技団体と連携してから準備を進めていきます。
- ・ 「水郷ひたチャレンジウォーク」「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」「奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレース」などでも、市外から多くの方が参加しています。今後とも情報発信に努め、魅力ある大会となるよう努めていきます。

◎施設利用の向上

- ・ スポーツ施設を安心して、安全に利用できるよう、施設の維持管理に努めます。
- ・ 体育施設照明設備改修工事など施設整備を行います。

◎スポーツボランティアの推進

- ・ 各種スポーツイベントにおいて、情報発信に努めるとともに、各種団体への呼びかけや市民公募により、スポーツボランティアを確保します。

5. 目標指標の設定と進捗管理

「第2期日田市スポーツ推進計画」を着実に実施していくことで目標となる指標を設定し、その達成状況の進行管理を行っていきます。

項目	現状値		令和5年度 計画目標	令和9年度 計画目標
	年度	数値		
成人の週1回以上のスポーツ実施率	令和5年度	33.8%	48.0%	65.0%
全国大会に出場する市民の人数	令和4年度	219人	310人	350人
県民スポーツ大会の成績	令和5年度	3位	3位以内	3位以内
スポーツ施設(市営施設のみ)の利用者	令和4年度	307,370人	470,000人	510,000人
スポーツイベント参加者数	令和4年度	2,221人	5,320人	5,500人
スポーツボランティア(職員を除く)	令和4年度	411人	850人	850人

本計画の目標指標の進捗管理については、毎年度、教育委員会が実施しています「教育事務の点検及び評価」において公表するとともに、本計画の策定委員会に報告し、委員から意見を聴取することとし、必要に応じて、施策に基づく実施方法を見直していきます。

6. 計画実施の主体

行政のみの力では本計画の着実な実施は困難であり、市民、事業所、関係団体、行政等がそれぞれ持つ力を発揮し、それぞれが連携して実施していくことが必要となります。

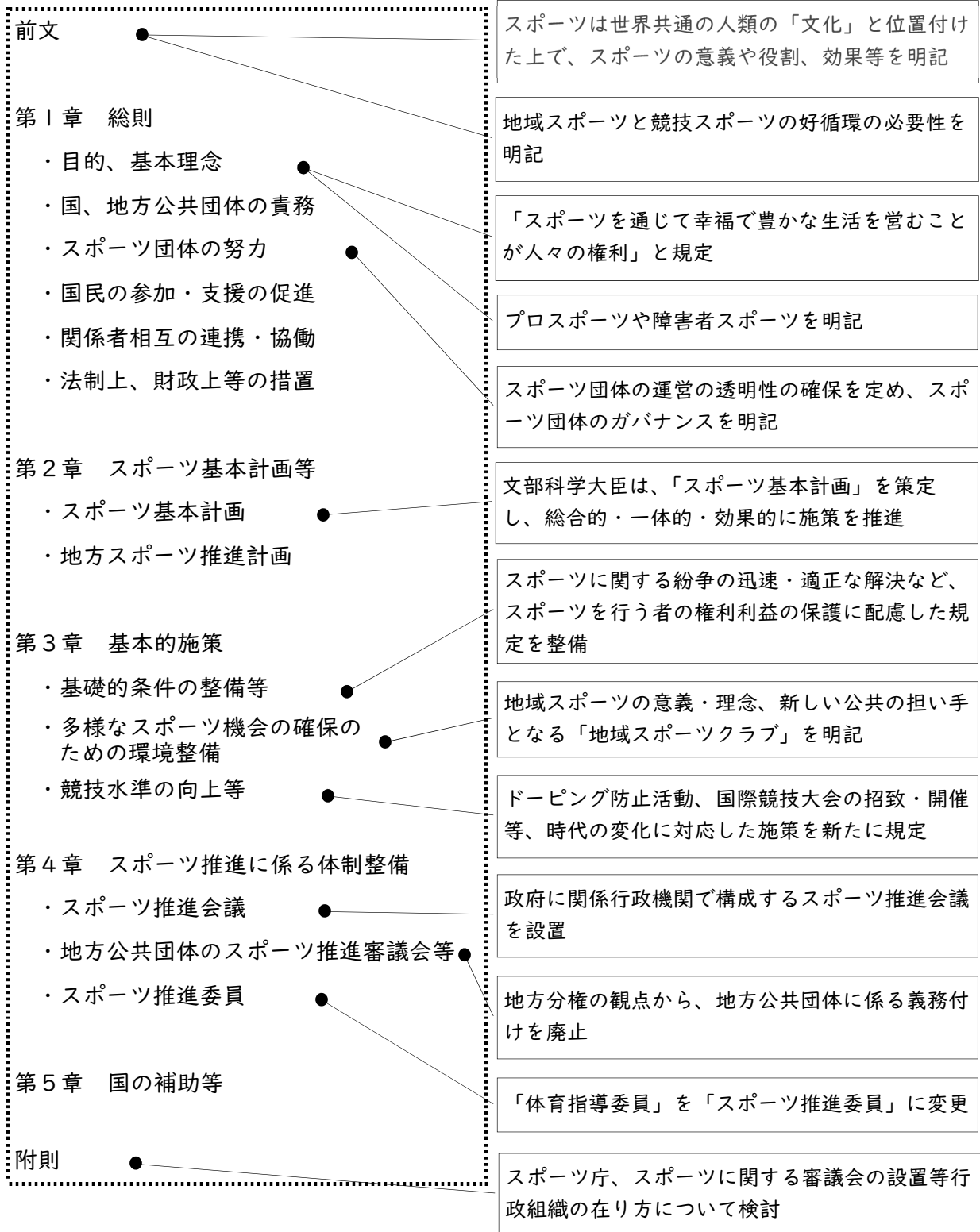
このため、あらゆる場面で市民参画を促し、自発的な意思でスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを実践していただきます。

また、行政においては、スポーツ施策を所管します教育委員会をはじめ、障がい者、高齢者、健康づくりを担当します福祉保健部、公園等を管理します土木建築部など、市民がスポーツを実施していくために必要な事業の実施や、施設の管理などを行うとともに、市民、事業所、関係団体と連携し活動を支援します。

資料編

1. スポーツ基本法（概要）

◆平成 23 (2011) 年 6 月、「スポーツ振興法」を 50 年ぶりに全面改正する「スポーツ基本法」が成立（同年 8 月施行）。



出典：文部科学省 「スポーツ基本計画」リーフレット（抜粋） 2012年5月発行

2. 第2期大分県スポーツ推進計画（概要）

計画の期間：令和3（2021）年度～令和12（2030）年度までの10年間。中間年となる令和7（2025）年度を目途に見直し

基本理念：「県民総参加 スポーツ力を高め 明るく元気な大分の創造」

県民の誰もが、それぞれのライフステージに応じて、スポーツに親しみ、
スポーツの楽しさや感動を味わいながら、健康で活力ある生活を営むことができる

基本目標と目指す姿

【基本目標Ⅰ】 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成

- ・ 県民が心身の健康の保持・増進を図り、健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、ライフステージに応じたスポーツを推進します。
- ・ 障がいのある人や女性など、これまでスポーツに親しむ機会が少なかった人がスポーツに親しむことができるよう、参加機会の充実等を図ります。
- ・ 県民の誰もが身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブの質的充実等を支援します。

【基本目標Ⅱ】 県民スポーツを支える環境づくりの推進

- ・ 県民の誰もが多様なかたちでスポーツを親しむことができるよう、「みる」「ささえる」スポーツイベントの充実を図ります。
- ・ より多くの県民が日常的にスポーツに親しむことができるよう、スポーツの活動の場の充実を図ります。
- ・ 多様化する県民のスポーツニーズに対応するため、スポーツ関係団体のガバナンス向上や、指導者の養成・確保等を図ります。

【基本目標Ⅲ】 世界に羽ばたく選手の育成

- ・ ジュニア期からの効果的な選手の育成・強化を図るため、優れた資質を有するジュニア選手の発掘を図るとともに、一貫指導体制を構築します。
- ・ 国内外の大会において本県選手が活躍できるよう、優秀選手の育成・強化、競技力を支える指導者等、人材の養成・確保を図ります。
- ・ 優秀選手が、必要な支援・協力を得て競技活動に専念できるよう、競技団体等との連携により競技力を支える環境整備を推進します。

【基本目標Ⅳ】 スポーツによる地域の元気づくり

- ・ 大規模スポーツイベントや事前キャンプの誘致に努め、地域との交流や情報発信により、地域の活性化に貢献します。
- ・ スポーツ施設やスポーツイベントなどの地域資源の活用により、県民のスポーツへの関心拡大と親しむ機運の醸成を図ります。
- ・ ラグビーワールドカップ2019の成果を着実に引き継いでいくことで、ラグビー文化の定着や国内外からの誘客等による地域活性化を図ります。

3. 市民アンケート調査結果

(本編に記載以外を掲載)

1. 調査の目的

令和6(2024)年3月に、「第2期日田市スポーツ推進計画 前期計画」の計画期間が終了することから、市民の運動・スポーツに関する実施状況や意識(ニーズ)を把握し、新たに策定する「第2期日田市スポーツ推進計画 後期計画」の基礎資料とするため、調査したものを。

2. 調査概要

調査期間：令和5(2023)年9月8日～10月2日

調査対象者：日田市内に居住する19歳以上90歳未満の方

標本抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出。

調査方法：郵便による調査票の送付。回収は郵送、Web併用

調査項目：運動やスポーツの実施状況や意向、スポーツに対する意識、日常生活における満足度ほか

配布数：1,000人

回収数：353人(令和5(2023)年10月12日回答分まで)

回収率：35.3%

3. 調査結果

① 回収の状況

年代	送付数	回答数	回収率	回答者数に対する割合
19歳～29歳	84人	11人	13.1%	3.1%
30歳代	122人	28人	23.0%	7.9%
40歳代	133人	36人	27.1%	10.2%
50歳代	177人	59人	33.3%	16.7%
60歳代	167人	83人	49.7%	23.5%
70歳代	184人	85人	46.2%	24.1%
80歳代	133人	49人	36.8%	13.9%
未回答	—	2人	—	0.6%
計	1,000人	353人	35.3%	100.0%

性別	送付数	回答数	回収率	回答者数に対する割合
男	500人	151人	30.2%	42.8%
女	500人	200人	40.0%	56.7%
回答したくない	—	0人	—	0.0%
未回答	—	2人	—	0.6%
計	1,000人	353人	35.3%	100.0%

職業	回答者数に対する割合	職業	回答者数に対する割合
農林業	5.7%	学生	0.8%
会社・工場・官公庁などに勤務	30.6%	無職	25.8%
個人で商店、工場、サービス業等を経営	10.5%	その他	0.6%
アルバイト、パート	13.0%	未回答	2.0%
専業主婦(夫)	11.0%	計	100.0%

② スポーツクラブ等への所属

所属（今後の意向も含む）	回答者数に対する割合
所属している	21.1%
所属していないが今後所属したい	10.5%
現在も今後も所属するつもりはない	53.3%
わからない	15.1%
計	100.0%

③ 1回あたりの平均活動時間

実施時間（全体）	回答者数に対する割合
30分以内	24.3%
30分～1時間程度	39.5%
1時間～2時間程度	26.2%
2時間以上	10.0%
計	100.0%

実施時間（男女別）	回答者数に対する割合	
	男性	女性
30分以内	22.6%	25.9%
30分～1時間程度	39.8%	38.8%
1時間～2時間程度	25.8%	26.7%
2時間以上	11.8%	8.6%
計	100.0%	100.0%

④ スポーツを行う理由

理由（全体） 複数回答可	回答者数に対する割合	回答数に対する割合
健康や体力づくりのため	75.4%	31.0%
楽しみや気晴らしのため	43.8%	17.9%
家族とのふれあいのため	8.0%	3.3%
友人や仲間との交流のため	31.7%	13.0%
自己の記録や能力を向上させるため	9.8%	2.0%
精神修養や訓練のため	3.6%	1.5%
美容やダイエットのため	14.7%	6.0%
運動不足を感じるため	49.6%	20.3%
自然とふれあうため	10.3%	4.2%
その他	1.8%	0.7%
計	-	100.0%
回答者数・回答数	224人	546件

⑤ スポーツを盛んにするための施策

必要な施策（全体）	平均値
1 地域で身近に利用できるスポーツ施設の整備	3.21
2 学校の先生以外の指導者が運動部活動の指導にあたる	3.14
3 気軽にスポーツが行える地域のスポーツクラブづくり	3.04
4 中学校の運動部活動の充実	2.99
5 各種スポーツ教室や行事の開催	2.89
6 広報などによるスポーツ情報の提供	2.87
7 地域にスポーツのリーダーや指導者の配置	2.84
8 競技力向上のため、優れた指導者の養成や選手育成	2.83
9 健康に関する教室や講演会の開催	2.78
10 トップアスリートに対する経済的支援	2.66

※ 平均値は、「大変重要だと思う」を4点、「まあ重要だと思う」を3点、「あまり重要とは思わない」を2点、「まったく重要とは思わない」を1点で積算し、回答者数で割った値。

⑥ 生活の満足度

満足度 (全体) 生活に満足しているか	回答者数に対する割合		
	全体	運動習慣あり	運動習慣なし
満足	17.3%	18.8%	16.8%
まあ満足	52.6%	63.2%	46.9%
どちらでもない	22.5%	13.7%	27.0%
やや不満	4.9%	2.6%	6.2%
不満	2.6%	1.7%	3.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 幸福度

幸福度 (全体) 幸福と感じるか	回答者数に対する割合		
	全体	運動習慣あり	運動習慣なし
はい	33.6%	42.0%	29.4%
まあまあ思う	49.1%	50.9%	48.4%
どちらでもない	14.6%	6.3%	18.6%
思わない	2.7%	0.9%	3.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%

⑧ 愛着度

愛着度 (全体) 地域への愛着は	回答者数に対する割合		
	全体	運動習慣あり	運動習慣なし
ある	38.5%	45.7%	34.8%
まあまあある	44.9%	43.1%	46.0%
あまりない	12.0%	7.8%	13.8%
ない	4.7%	3.4%	5.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%

⑨ 日田市のスポーツ環境やスポーツの推進についての意見等

主なものとして、「スポーツ教室などの充実」「気軽に参加できるスポーツ環境」「スポーツ施設の充実、整備」「スポーツを推進するリーダーの育成」「楽しく遊べる充実した公園の整備」「現施設の利用制限の緩和」「高齢者が気軽に運動できる環境づくり」などの意見をいただいた。

4. 関係団体意見聴取結果

1. 調査の目的

令和6(2024)年3月に、「第2期日田市スポーツ推進計画 前期計画」の計画期間が終了することから、市民の運動・スポーツに関する実施状況や意識(ニーズ)を把握し、新たに策定する「第2期日田市スポーツ推進計画 後期計画」の基礎資料とするため、スポーツ関係団体から意見聴取したものを。

2. 調査概要

意見聴取期間：令和5(2023)年9月20日～10月13日

調査対象団体：77団体

日田市スポーツ協会、日田市スポーツ協会種目部(36団体)、地区体育協会等(20団体)、日田市スポーツ少年団加入団体(15団体)、その他関係団体(ここにこステップ運動リーダーの会、日田健康運動リーダーの会、日田市レクリエーション協会、ノルディック・ウォーキング倶楽部ひた、日田市身体障害者福祉協議会 計4団体)

意見聴取方法：郵便による調査票の送付。回収は郵送

意見聴取項目：団体が抱える課題や問題点、課題解決方策、市に期待すること など

回収数：36団体

回収率：46.8%

3. 意見聴取結果

① 現在、団体が抱える課題、問題点

主な課題や問題点としては、「少子高齢化に伴い区内や競技団体で高齢化が進み、若い選手が少ない、参加者がいない、指導者不足、役員の引き受け手がいない」「使用する施設が老朽化している」「総合体育館の空調使用料が高い」「コロナ禍でスポーツ離れ、活動の停滞」「夏の熱中症対策、日陰が少ない」「練習費用がない、運営資金不足」などの意見があり、人口の減少や高齢化に加え、コロナ禍によるスポーツ離れによる運動やスポーツ活動の担い手の不足や環境整備等が主な課題や問題点としてあげられた。

② 団体が抱える課題、問題点を解決するため、団体が行っている対応策、今後行う対応策

主な意見として、「スポーツ大会の内容の見直し、楽しむ競技へ変更」「若手選手の育成、若手の起用」「大会や練習場での声掛け、選手からの情報収集」「選手・指導者の練習会、研修会・養成講座の実施」「選手強化費の活用による練習費の負担軽減」などがあり、運動やスポーツ活動の担い手確保に向けた取組の対応策としてあげられた。

③ 団体が抱える課題、問題点を解決するため、市に期待すること

主な意見として、「市民体育大会の地区編成、合同参加の検討、実施のあり方の検討」「施設の整備や練習場所の確保」「総合体育館の空調使用料の見直し」「スポーツ情報の積極的な発信」「活動費の支援」などがあり、運動やスポーツ活動に関する施設・環境整備、情報発信等の取組が市に期待するものとしてあげられた。

④ 日田市のスポーツ環境やスポーツ推進についての意見等

主な意見として、スポーツ環境やスポーツ推進についての意見は、前述の施設整備に加え、「レクリエーションとして楽しめるスポーツイベントを中心とした協会運営へと検討」「合同チーム等の検討」「中学校部活動の地域移行に伴い、検討機関と関係団体の十分な協議」「若い人が将来日田市を代表して、全国・世界へ行ってほしい」などの意見をいただいた。

5. スポーツ振興課所管施設一覧

(経過年は令和5年4月1日現在)

No	管理	名 称	建築年	経過年	所在地区
1	日田市	日田市大原テニスコート	昭和40年	58年	咸宜
2	サービス公社	日田市大原公園テニスコート	昭和62年	36年	咸宜
3	サービス公社	日田市総合体育館	平成2年	33年	咸宜
4	サービス公社	日田市総合体育館(柔道場)	平成2年	33年	咸宜
5	サービス公社	日田市総合体育館(剣道場)	平成2年	33年	咸宜
6	サービス公社	日田市陸上競技場	平成10年	25年	咸宜
7	サービス公社	日田市竹田テニスコート	昭和36年	62年	若宮
8	サービス公社	日田市営プール	昭和38年	60年	若宮
9	サービス公社	日田市相撲場	昭和58年	40年	若宮
10	サービス公社	日田市大原グラウンド	昭和47年	51年	咸宜
11	サービス公社	日田市朝日ヶ丘球場	昭和47年	51年	朝日
12	サービス公社	日田市平野球場	昭和61年	37年	五和
13	サービス公社	日田市光岡スポーツ広場	昭和62年	36年	光岡
14	サービス公社	日田市三和スポーツ広場	昭和63年	35年	三花
15	サービス公社	日田市中城グラウンド	昭和51年	47年	咸宜
16	サービス公社	日田市中城体育館	昭和47年	51年	咸宜
17	サービス公社	日田市武道場	昭和47年	51年	咸宜
18	サービス公社	日田市京町プール	昭和52年	46年	高瀬
19	サービス公社	日田市北友田3丁目プール	昭和52年	46年	光岡
20	日田市	日田市有田小夜間照明施設	昭和52年	46年	東有田
21	日田市	日田市南部中夜間照明施設	昭和53年	45年	高瀬
22	日田市	日田市三隈中夜間照明施設	昭和54年	44年	日隈
23	日田市	日田市東有田スポーツ広場	昭和51年	47年	東有田
24	日田市	日田市財津町スポーツ広場	昭和52年	46年	三花
25	日田市	日田市大鶴スポーツ広場	平成10年	25年	大鶴
26	日田市	日田市ウエイトリフティング場	平成13年	22年	咸宜
27	日田市	日田市弓道場	昭和41年	57年	咸宜
28	日田市	日田市アーチェリー場	平成25年	10年	光岡
29	日田市	日田市夜明トレーニングセンター	平成6年	29年	夜明
30	日田市	日田市竹田艇庫	平成17年	18年	若宮
31	日田市	日田市前津江町柔剣道場	昭和61年	37年	前津江
32	日田市	日田市広川運動広場	平成9年	26年	上津江
33	日田市	日田市都留スポーツセンター	平成8年	27年	上津江
34	日田市	日田市上津江グラウンド	平成9年	26年	上津江
35	日田市	日田市上津江体育館	平成13年	22年	上津江
36	日田市	日田市上野田多目的スポーツ広場	平成16年	19年	上津江
37	日田市	日田市B&G大山海洋センタープール	昭和58年	40年	大山
38	サービス公社	日田市B&G天瀬海洋センター体育館	昭和61年	37年	天瀬
39	サービス公社	日田市B&G天瀬海洋センター柔剣道場	昭和61年	37年	天瀬
40	サービス公社	日田市B&G天瀬海洋センタープール	昭和61年	37年	天瀬
41	サービス公社	日田市天瀬スポーツ広場	昭和63年	35年	天瀬
42	サービス公社	日田市天瀬第1テニスコート	昭和63年	35年	天瀬
43	サービス公社	日田市天瀬第2テニスコート	昭和63年	35年	天瀬

44	サービス公社	日田市天瀬総合グラウンド	平成2年	33年	天瀬
45	サービス公社	日田市天瀬屋根付き運動広場	平成3年	32年	天瀬
46	サービス公社	日田市天瀬やまびこ研修所	平成10年	25年	天瀬
47	地球財団	日田市鯛生スポーツセンター（宿泊施設）	平成3年	32年	中津江
48	地球財団	日田市B&G中津江海洋センター（体育館）	平成3年	32年	中津江
49	地球財団	日田市B&G中津江海洋センター（武道場）	平成3年	32年	中津江
50	地球財団	日田市B&G中津江海洋センター（研修室）	平成3年	32年	中津江
51	地球財団	日田市B&G中津江海洋センター（プール）	平成3年	32年	中津江
52	日田市	日田市大山体育館	平成11年	24年	大山
53	日田市	日田市大山武道場	平成12年	21年	大山

6. 日田市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条の規定に基づく日田市計画(以下「計画」という。)の策定について検討を行うため、日田市スポーツ推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次に掲げる事項とする。

- (1) 計画の策定に関する事項
- (2) その他計画の策定に関して必要な事項

(組織)

第3条 委員会の委員は、12人以内の委員で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) スポーツ関係団体の代表者
- (2) 福祉、保健関係者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) その他教育委員会が特に認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、令和9年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員の委嘱又は任命後最初に招集される委員会の会議は、教育長が招集する。

- 2 委員会は、委員の定数の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要に応じて委員会に関係者の出席を求めて、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育庁スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会の会議に諮ってこれを定める。

附 則

- この要綱は、平成28年4月1日から施行する。
この要綱は、平成29年1月1日から施行する。
この要綱は、令和3年4月1日から施行する。
この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

委員構成（合計 12 名）

スポーツ関係団体	5名	スポーツ協会、地区体育協会、スポーツ協会種目部代表、 スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団指導者
福祉団体	2名	老人クラブ連合会、身体障害者福祉協議会
その他	3名	中学校体育連盟、教育課程等研究協議会体育部会 健康づくり団体
行政	2名	福祉保健部、教育委員会

※各団体から1名

7. スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

	氏名	委員会 役職	選任根拠	母体となる団体等
1	竹井 信之	委員長	スポーツ 関係団体	日田市スポーツ協会 副会長
2	石井 吉人		スポーツ 関係団体	地区体育協会代表 (前津江体育協会 会長)
3	財津 美紀夫		スポーツ 関係団体	日田市スポーツ協会種目部代表 (日田市陸上競技協会 会長)
4	日出 正義	副委員長	スポーツ 関係団体	日田市スポーツ推進委員協議会 会長
5	諫本 秀樹		スポーツ 関係団体	スポーツ少年団 副本部長
6	渡邊 圭一郎		福祉団体	日田市老人クラブ連合会 事務局長
7	杉森 恵子		福祉団体	身体障害者福祉協議会 事務局長兼会計
8	江藤 裕也		その他	日田市中学校体育連盟 副理事長
9	江田 友樹		その他	教育課程等研究協議会体育部会 部長
10	室井 みどり		その他	にこにこステップ運動リーダーの会 会長
11	衣笠 雄司		関係 行政機関	日田市福祉保健部長
12	高倉 保徳		関係 行政機関	日田市教育次長